

2 分析の方法

(1) 基礎数値

平成21年度地方財政状況調査を基礎とし、必要に応じて平成20年度地方財政状況調査の数値を用いた。その他、これらの調査に含まれない数値としては、各市町村の平成21年3月31日現在及び平成22年3月31日現在の住民基本台帳人口を用いた。

(2) 各指数の算出方法

1) 語句の説明

2) の算式のうち若干紛らわしい語句があるが、その意味は次のとおりである。なお、語句の説明及び算式の中の()又は[]内の数字は、平成21年度地方財政状況調査の該当の表・行・列を示すものである。ただし、Sのつくものは平成20年度地方財政状況調査の中のものである。

- ① 一般財源(狭義) = 地方税(05・01・01) + 地方譲与税(05・02・01) + 利子割交付金(05・03・01) + 配当割交付金(05・04・01) + 株式等譲渡所得割交付金(05・05・01) + 地方消費税交付金(05・06・01) + ゴルフ場利用税交付金(05・07・01) + 特別地方消費税交付金(05・08・01) + 自動車取得税交付金・軽油引取税交付金(政令指定都市のみ)(05・09・01) + 地方特例交付金等(05・10・01) + 地方交付税(05・11・01)
 - ② 一般財源(広義) = 地方税 + 地方譲与税 + 利子割交付金 + 配当割交付金 + 株式等譲渡所得割交付金 + 地方消費税交付金 + ゴルフ場利用税交付金 + 特別地方消費税交付金 + 自動車取得税交付金・軽油引取税交付金(政令指定都市のみ) + 地方特例交付金等 + 地方交付税 + 国有提供施設等所在市町村助成交付金 + 交通安全対策特別交付金 + 国庫支出金・県支出金のうち使途の特定されないもの(例えば災害復旧事業の施越事業にかかるもの) + 使用料・手数料のうち使途の特定されないもの(例えば水利権その他無体財産権の使用等に対するもの) + 寄附金のうち使途が特定されないもの + 財産収入のうち使途が特定されないもの + 繰入金のうち使途が特定されないもの(例えば財政調整基金とりくずし額) + 諸収入のうち使途が特定されないもの(例えば預金利子) + 繰越金のうち繰越事業に充当すべきものを除いた純剰余金 + 地方債のうち、臨時財政対策債等 [05・31・03 + 05・31・05]
 - ③ 経常一般財源 = 一般財源(広義)のうち毎年連続して恒常的に収入されるもの、すなわち、普通税 + 地方譲与税 + 普通交付税 + 入湯税 + 事業所税 + 利子割交付金 + 配当割交付金 + 株式等譲渡所得割交付金 + 地方消費税交付金 + ゴルフ場利用税交付金 + 特別地方消費税交付金 + 自動車取得税交付金・軽油引取税交付金(政令指定都市のみ) + 地方特例交付金等 + 交通安全対策特別交付金 + 国有提供施設等所在市町村助成交付金 + 経常的に収入される使用料・財産収入及び諸収入のうち使途の特定されないもの等 [05・31・05]
 - ④ 経常的経費 = [14・23・04 + 14・23・05]
 - ⑤ 臨時的経費 = [14・23・02 + 14・23・03]
- 経費の科目又は経費の性質による経常的・臨時的の経費区分

⑥ 自主財源＝地方税(04・01・01)+分担金及び負担金(04・01・25)+使用料(04・01・29)+手数料 (04・01・37)+財産収入(04・02・20)+寄附金(04・02・26)+繰入金(04・02・27) +純繰越金(04・02・29)+諸収入のうち受託事業収入、収益事業収入及び一部事務組合配分金を除いたもの(04・02・31－04・02・36－04・02・39－04・02・41)

(3) 平均指数の算出方法

(2) に示した算式により算出した指数、比率を基にし、それぞれ市平均・町村平均・県平均及び各類型区分の平均指数を算出した。

3 財政分析指標の推移

(1) 指標の選定

財政構造とその健全性を把握するために次の指標を選定し、平成10年度から数値を示した。ただし、財政力指数(単年度)については平成11年度から、実質公債費比率については平成17年度から、将来負担比率については平成19年度から数値を示した。

- ア 経常収支比率
- イ 公債費比率
- ウ 財政力指数(単年度)
- エ 性質別歳出における普通建設事業費比率
- オ 起債制限比率
- カ 実質公債費比率
- キ 将来負担比率

2) 算式

[一般指標]

① 人口対前年度増加率 = $\left(\frac{\text{平成22年3月31日現在住民基本台帳人口}}{\text{平成21年3月31日現在住民基本台帳人口}} - 1 \right) \times 100$

② 経常収支比率 = $\frac{\text{経常経費充当一般財源等額(14・23・05)}}{\text{経常一般財源等収入額(05・31・05) + 減収補てん債特例分(05・29・01) + 臨時財政対策債(05・30・01)}} \times 100$

以下、経常一般財源等収入額 + 減収補てん債特例分 + 臨時財政対策債 … A とする。

ア 人件費 = $\frac{\text{経常人件費充当一般財源等(14・01・05)}}{A} \times 100$

イ 物件費 = $\frac{\text{経常物件費充当一般財源等(14・03・05)}}{A} \times 100$

ウ 維持補修費 = $\frac{\text{経常維持補修費充当一般財源等(14・04・05)}}{A} \times 100$

エ 扶助費 = $\frac{\text{経常扶助費充当一般財源等(14・05・05)}}{A} \times 100$

オ 補助費等 = $\frac{\text{経常補助費等充当一般財源等(14・06・05)}}{A} \times 100$

カ うち一部事務組合に対するもの = $\frac{\text{経常補助費等充当一般財源等(14・07・05)}}{A} \times 100$

キ 公債費 = $\frac{\text{経常公債費充当一般財源等(14・09・05)}}{A} \times 100$

ク 経常的繰出金 = $\frac{\text{経常的繰出金充当一般財源等(14・15・05)}}{A} \times 100$

③ 再計による経常収支比率 = $\frac{\text{経常経費充当一般財源等} + \text{経常経費充当一般財源等(決算統計第45表)}}{A} \times 100$

ア 人件費 = $\frac{(14・01・05 + 45・01・05)}{A} \times 100$

イ 物件費 = $\frac{(14・03・05 + 45・02・05)}{A} \times 100$

ウ 公債費 = $\frac{(14・09・05 + 45・06・05)}{A} \times 100$

④ 財力指数 = $\left(\frac{19\text{年度基準財政収入額}}{19\text{年度基準財政需要額}} + \frac{20\text{年度基準財政収入額}}{20\text{年度基準財政需要額}} + \frac{21\text{年度基準財政収入額}}{21\text{年度基準財政需要額}} \right) \times \frac{1}{3}$ ※錯誤を除く

⑤ 標準財政規模 = 標準税収入額等(35・03・17)(注1) + 普通交付税(04・01・22)

⑥ ア 公債費比率 = $\frac{\text{公債費充当一般財源等額(繰上償還額及び転貸債償還額に係る分を除く)(35・03・12)}}{\text{標準税収入額等(35・03・17) + 普通交付税額(35・03・18) + 臨時財政対策債発行可能額(35・03・19) - 災害復旧費等にかかる基準財政需要額(注2)(35・03・16) - 災害復旧費等にかかる基準財政需要額(注2)(35・03・16)}} \times 100$

(注1) 標準税収入額等 = (基準財政収入額 - 市町村民税所得割における税源移譲相当額の25% - 地方譲与税 - 交通安全対策特別交付金 - 児童手当特例交付金)

$\times \frac{100}{75}$ + 地方譲与税 + 交通安全対策特別交付金 + 児童手当特例交付金

(注2) 平成21年度決算統計記載要領のとおり

イ 公債費比率(債務負担行為を含む比率) = $\frac{\text{アの分子} + \text{公債費に準ずる債務負担行為に係る一般財源等額}(38・41・06)}{\text{アの分母}} \times 100$

ウ 起債制限比率

(19年度)	$\frac{A(35・01・13) + B(35・01・14) + I(35・01・15) - C(35・01・16) - D(35・01・20) - H(35・01・21)}{E(35・01・17) + F(35・01・18) + G(35・01・19) - C(35・01・16) - D(35・01・20) - H(35・01・21)}$	+
(20年度)	$\frac{A(35・02・13) + B(35・02・14) + I(35・02・15) - C(35・02・16) - D(35・02・20) - H(35・02・21)}{E(35・02・17) + F(35・02・18) + G(35・02・19) - C(35・02・16) - D(35・02・20) - H(35・02・21)}$	+
(21年度)	$\frac{A(35・03・13) + B(35・03・14) + I(35・03・15) - C(35・03・16) - D(35・03・20) - H(35・03・21)}{E(35・03・17) + F(35・03・18) + G(35・03・19) - C(35・03・16) - D(35・03・20) - H(35・03・21)}$	

) × 1/3 × 100

- (注) A 公債費充当一般財源等額(繰上償還額及び公営企業償還額に係る分除く)
 B 一般財源等の債務負担行為のうちPFI事業における債務負担行為に係るもの
 C 災害復旧費等に係る基準財政需要額
 D 事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費
 E 標準税収入額等
 F 普通交付税額
 G 臨時財政対策債発行可能額
 H 事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費に準ずる債務負担行為に係る支出
 I 一般財源等のうち五省協定・負担金等における債務負担行為に係るものうち平成14年度以降に債務負担行為を設定されたもの
 ・単年度と言う場合は、3カ年平均しないそれぞれの比率

- ⑦ 公債費負担比率 = $\frac{\text{公債費充当一般財源等(13・32・11)}}{\text{歳出総額充当一般財源等(13・38・11)+歳計剰余金等充当一般財源等(13・40・11)}} \times 100$
- ⑧ 地方債現在高比率 = $\frac{\text{地方債現在高(33・54・09)}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
- ⑨ 債務負担行為比率 = $\frac{\text{債務負担行為に基づく当該年度支出額(38・41・01)}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
- ⑩ 債務負担行為残高比率 = $\frac{\text{債務負担行為翌年度以降支出予定額(37・41・02)}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
- ⑪ 積立金現在高比率 = $\frac{\text{積立金現在高(29・06・04)}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
- ⑫ 実質収支比率 = $\frac{\text{実質収支(02・01・05)}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
- ⑬ 収益事業収入比率 = $\frac{\text{収益事業収入(04・02・39)}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
- ⑭ 経常一般財源等比率 = $\frac{\text{経常一般財源等(05・31・05)}}{\text{標準財政規模}} \times 100$
- ⑮ 将来の財政負担額比率 = $\frac{\text{地方債現在高(33・54・09)+債務負担行為翌年度以降支出予定額(37・41・02)-積立金現在高(29・06・04)}}{\text{歳入総額(02・01・01)}} \times 100$

[人口1人当たりの決算額]

① 歳入

(ア) 歳入合計 = $\frac{\text{歳入総額(05・31・01)}}{\text{平成22年3月31日現在住民基本台帳人口}}$

以下、平成22年3月31日現在住民基本台帳人口…Bとする。

(イ) 各歳入項目 = $\frac{\text{各歳入項目}}{B}$

一般財源(狭義)[地方税(05・01・01)+地方譲与税(05・02・01)+利子割交付金(05・03・01)+配当割交付金(05・04・01)+株式等譲渡所得割交付金(05・05・01)+地方消費税交付金(05・06・01)+ゴルフ場利用税交付金(05・07・01)

(ウ) 一般財源 = $\frac{\text{+特別地方消費税交付金(05・08・01)+軽油引取税・自動車取得税交付金(05・09・01)+地方特例交付金等(05・10・01)+地方交付税(05・11・01)}}{B}$

(エ) 経常一般財源 = $\frac{\text{経常一般財源等(05・31・05)}}{B}$

(オ) 特定財源 = $\frac{\text{特定財源(05・31・02+05・31・04)}}{B}$

(カ) 経常的収入 = $\frac{\text{経常的収入(05・31・04+05・31・05)}}{B}$

(キ) 自主財源 = $\frac{\text{自主財源[地方税(04・01・01)+分担金及び負担金(04・01・25)+使用料(04・01・29)+手数料(04・01・37)+財産収入(04・02・20)+寄付金(04・02・26)+繰入金(04・02・27)+純繰越金(04・02・29)+諸収入(04・02・31)-受託事業収入(04・02・36)-収益事業収入(04・02・39)-一部事務組合配分金(04・02・41)]}}{B}$

② 歳出

(ア) 歳出合計 = $\frac{\text{歳出総額(14・23・01)}}{B}$

(イ) 各目的別歳出項目 = $\frac{\text{各目的別歳出項目}}{B}$

(ウ) 各性質別歳出項目 = $\frac{\text{各性質別歳出項目}}{B}$

(エ) 義務的経費 = $\frac{\text{義務的経費[(人件費(14・01・01)+扶助費(14・05・01)+公債費(14・09・01)]}}{B}$

(オ) 経常的繰出金 = $\frac{\text{経常的繰出金(14・15・04+14・15・05)}}{B}$

(カ) 経常的経費 = $\frac{\text{経常的経費[人件費(14・01・01)+扶助費(14・05・01)+公債費(14・09・01)+物件費(14・03・01)+維持補修費(14・04・01)+補助費等(14・06・01)+投資及び貸付金(14・14・04+14・14・05)+繰出金(14・15・04+14・15・05)]}}{B}$

(キ) 投資的経費 = $\frac{\text{投資的経費(14・17・01)}}{B}$

(ク) 普通建設事業費のうち補助事業費 = $\frac{\text{補助事業費(13・13・01+13・15・01+13・19・01)}}{B}$

(ケ) 普通建設事業費のうち単独事業費 = $\frac{\text{単独事業費(13・14・01+13・16・01+13・17・01+13・20・01)}}{B}$

③ その他

(ア) 積立金現在高 = $\frac{\text{積立金現在高(29・06・04)}}{B}$

(イ) 財政調整基金現在高 = $\frac{\text{財政調整基金現在高(29・06・01)}}{B}$

(ウ) 地方債現在高 = $\frac{\text{地方債現在高(33・54・09)}}{B}$

(エ) 債務負担行為未払残高 = $\frac{\text{債務負担行為翌年度以降支出予定額(37・41・02)}}{B}$

(オ) 将来にわたる債務 = $\frac{\text{将来にわたる債務(33・54・09+37・41・02)}}{B}$

[構成比]

① 歳入構成比

$$(ア) \text{各歳入項目} = \frac{\text{各歳入項目}}{\text{歳入総額(05・31・01)}} \times 100$$

以下、歳入総額…Cとする。

$$(イ) \text{一般財源} = \frac{\text{一般財源(狭義)(地方税(05・01・01)+地方譲与税(05・02・01)+利子割交付金(05・03・01)} \\ + \text{配当割交付金(05・04・01)+株式等譲渡所得割交付金(05・05・01)+地方消費税交付金(05・06・01)} \\ + \text{ゴルフ場利用税交付金(05・07・01)+特別地方消費税交付金(05・08・01)} \\ + \text{軽油引取税・自動車取得税交付金(05・09・01)+地方特例交付金等(05・10・01)+地方交付税(05・11・01)}}{C} \times 100$$

$$(ウ) \text{経常一般財源} = \frac{\text{経常一般財源等(05・31・05)}}{C} \times 100$$

$$(エ) \text{特定財源} = \frac{\text{特定財源(05・31・02+05・31・04)}}{C} \times 100$$

$$(オ) \text{経常的収入} = \frac{\text{経常的収入(05・31・04+05・31・05)}}{C} \times 100$$

$$(カ) \text{自主財源} = \frac{\text{自主財源(地方税(04・01・01)+分担金及び負担金(04・01・25)+使用料(04・01・29)+手数料(04・01・37)} \\ + \text{財産収入(04・02・20)+寄付金(04・02・26)+繰入金(04・02・27)+純繰越金(04・02・29)+諸収入(04・02・31)} \\ - \text{受託事業収入(04・02・36)-収益事業収入(04・02・39)-一部事務組合配分金(04・02・41)}}{C} \times 100$$

② 目的別歳出構成比

$$\text{各目的別歳出項目} = \frac{\text{各目的別歳出項目}}{\text{歳出総額(14・23・01)}} \times 100$$

以下、歳出総額…Dとする。

③ 性質別歳出構成比

$$(ア) \text{各性質別歳出項目} = \frac{\text{各性質別歳出項目}}{D} \times 100$$

$$(イ) \text{義務的経費} = \frac{\text{義務的経費[(人件費(14・01・01)+扶助費(14・05・01)+公債費(14・09・01)]}}{D} \times 100$$

$$(ウ) \text{経常的繰出金} = \frac{\text{経常的繰出金(14・15・04+14・15・05)}}{D} \times 100$$

$$(エ) \text{経常的経費} = \frac{\text{経常的経費[人件費(14・01・01)+扶助費(14・05・01)+公債費(14・09・01)+物件費(14・03・01)} \\ + \text{維持補修費(14・04・01)+補助費等(14・06・01)+投資及び貸付金(14・14・04+14・14・05)} \\ + \text{繰出金(14・15・04+14・15・05)}}{D} \times 100$$

$$(オ) \text{投資的経費} = \frac{\text{投資的経費(14・17・01)}}{D} \times 100$$

$$(カ) \text{普通建設事業費のうち補助事業費} = \frac{\text{補助事業費(13・13・01+13・15・01+13・19・01)}}{D} \times 100$$

$$(キ) \text{普通建設事業費のうち単独事業費} = \frac{\text{単独事業費(13・14・01+13・16・01+13・17・01+13・20・01)}}{D} \times 100$$

[対前年度増減率]

① 歳入増減率

$$(ア) \text{各歳入項目} = \left(\frac{\text{21年度各歳入項目歳入額}}{\text{20年度各歳入項目歳入額}} - 1 \right) \times 100$$

$$(イ) \text{一般財源} = \left(\frac{\text{21年度一般財源(狭義)(05・01・01+05・02・01+05・03・01+05・04・01+05・05・01+05・06・01)} \\ + \text{05・07・01+05・08・01+05・09・01+05・10・01+05・11・01}}{\text{20年度一般財源(狭義)(S 05・01・01+S 05・02・01+S 05・03・01+S 05・04・01+S 05・05・01}} \right. \\ \left. + \text{S 05・06・01+S 05・07・01+S 05・08・01+S 05・09・01+S 05・10・01+S 05・11・01}} \right) - 1 \times 100$$

$$(ウ) \text{経常一般財源} = \left(\frac{\text{21年度経常一般財源等(05・31・05)}}{\text{20年度経常一般財源等(S 05・31・05)}} - 1 \right) \times 100$$

$$(エ) \text{経常的収入} = \left(\frac{\text{21年度経常的収入(05・31・04+05・31・05)}}{\text{20年度経常的収入(S 05・31・04+S 05・31・05)}} - 1 \right) \times 100$$

$$(オ) \text{臨時的収入} = \left(\frac{\text{21年度臨時的収入(05・31・02+05・31・03)}}{\text{20年度臨時的収入(S 05・31・02+S 05・31・03)}} - 1 \right) \times 100$$

$$(カ) \text{自主財源} = \left(\frac{\text{21年度自主財源(04・01・01+04・01・25+04・01・29+04・01・37+04・02・20+04・02・26}} \\ + \text{04・02・27+04・02・29+04・02・31-04・02・36-04・02・39-04・02・41)}}{\text{20年度自主財源(S 04・01・01+S 04・01・25+S 04・01・29+S 04・01・37+S 04・02・20}} \right. \\ \left. + \text{S 04・02・26+S 04・02・27+S 04・02・29+S 04・02・31-S 04・02・36-S 04・02・39-S 04・02・41}} \right) - 1 \times 100$$

$$(キ) \text{依存財源} = \left(\frac{\text{21年度依存財源(歳入総額-自主財源)}}{\text{20年度依存財源(歳入総額-自主財源)}} - 1 \right) \times 100$$

② 性質別歳出増減率

$$(ア) \text{各性質別歳出増減率} = \left(\frac{\text{21年度各性質別歳出項目}}{\text{20年度各性質別歳出項目}} - 1 \right) \times 100$$

$$(イ) \text{義務的経費} = \left(\frac{\text{21年度義務的経費(14・01・01+14・05・01+14・09・01)}}{\text{20年度義務的経費(S 14・01・01+S 14・05・01+S 14・09・01)}} - 1 \right) \times 100$$

- (ウ) 経常的経費 =
$$\left(\frac{21年度経常的経費(14\cdot01\cdot01+14\cdot05\cdot01+14\cdot09\cdot01+14\cdot03\cdot01+14\cdot04\cdot01+14\cdot06\cdot01}{20年度経常的経費(S 14\cdot01\cdot01+S 14\cdot05\cdot01+S 14\cdot09\cdot01+S 14\cdot03\cdot01+S 14\cdot04\cdot01+S 14\cdot06\cdot01)} + \frac{(14\cdot14\cdot04+14\cdot14\cdot05)+(14\cdot15\cdot04+14\cdot15\cdot05)}{(S 14\cdot14\cdot04+S 14\cdot14\cdot05)+(S 14\cdot15\cdot04+S 14\cdot15\cdot05)} \right) - 1 \times 100$$
- (エ) 投資的経費 =
$$\left(\frac{21年度投資的経費(14\cdot17\cdot01)}{20年度投資的経費(S 14\cdot17\cdot01)} - 1 \right) \times 100$$
- (オ) 普通建設事業費のうち補助事業費 =
$$\left(\frac{21年度補助事業費(13\cdot13\cdot01+13\cdot15\cdot01+13\cdot19\cdot01)}{20年度補助事業費(S 13\cdot13\cdot01+S 13\cdot15\cdot01+S 13\cdot19\cdot01)} - 1 \right) \times 100$$
- (カ) 普通建設事業費のうち単独事業費 =
$$\left(\frac{21年度単独事業費(13\cdot14\cdot01+13\cdot16\cdot01+13\cdot17\cdot01+13\cdot20\cdot01)}{20年度単独事業費(S 13\cdot14\cdot01+S 13\cdot16\cdot01+S 13\cdot17\cdot01+S 13\cdot20\cdot01)} - 1 \right) \times 100$$
- ③ その他
- (ア) 積立金現在高増減率 =
$$\left(\frac{21年度積立金現在高(29\cdot06\cdot04)}{20年度積立金現在高(S 29\cdot06\cdot04)} - 1 \right) \times 100$$
- (イ) 財政調整基金+減債基金現在高増減率 =
$$\left(\frac{21年度財政調整基金(29\cdot06\cdot01)+減債基金現在高(29\cdot06\cdot02)}{20年度財政調整基金(S 29\cdot06\cdot01)+減債基金現在高(S 29\cdot06\cdot02)} - 1 \right) \times 100$$
- (ウ) その他基金現在高増減率 =
$$\left(\frac{21年度その他基金現在高(29\cdot06\cdot03)}{20年度その他基金現在高(S 29\cdot06\cdot03)} - 1 \right) \times 100$$
- (エ) 地方債現在高増減率 =
$$\left(\frac{21年度地方債現在高(33\cdot54\cdot09)}{20年度地方債現在高(S 33\cdot54\cdot09)} - 1 \right) \times 100$$
- (オ) 債務負担行為未払残高 =
$$\left(\frac{21年度債務負担行為翌年度以降支出予定額(37\cdot41\cdot02)}{20年度債務負担行為翌年度以降支出予定額(S 37\cdot41\cdot02)} - 1 \right) \times 100$$
- (カ) 将来にわたる債務 =
$$\left(\frac{21年度将来にわたる債務(33\cdot54\cdot09+37\cdot41\cdot02)}{20年度将来にわたる債務(S 33\cdot54\cdot09+S 37\cdot41\cdot02)} - 1 \right) \times 100$$
- [各種指標]
- ① 歳入総額に対する割合
- (ア) 積立金現在高 =
$$\frac{\text{積立金現在高}(29\cdot06\cdot04)}{\text{歳入総額}(05\cdot31\cdot01)} \times 100$$
- (イ) 財政調整基金現在高 =
$$\frac{\text{財政調整基金現在高}(29\cdot06\cdot01)}{\text{歳入総額}(05\cdot31\cdot01)} \times 100$$
- (ウ) 地方債現在高 =
$$\frac{\text{地方債現在高}(33\cdot54\cdot09)}{\text{歳入総額}(05\cdot31\cdot01)} \times 100$$
- (エ) 債務負担行為未払残高 =
$$\frac{\text{債務負担行為翌年度以降支出予定額}(37\cdot41\cdot02)}{\text{歳入総額}(05\cdot31\cdot01)} \times 100$$
- (オ) 将来にわたる債務 =
$$\frac{\text{将来にわたる債務}(33\cdot54\cdot09+37\cdot41\cdot02)}{\text{歳入総額}(05\cdot31\cdot01)} \times 100$$
- ② 施設の管理費
- (ア) 人件費対人件費総額比 =
$$\frac{\text{施設の年間所要経常経費のうち人件費}(46\cdot01\cdot01+46\cdot02\cdot01+46\cdot03\cdot01+46\cdot04\cdot01+46\cdot05\cdot01+46\cdot06\cdot01+46\cdot07\cdot01+46\cdot08\cdot01+46\cdot09\cdot01+46\cdot10\cdot01+46\cdot11\cdot01+46\cdot12\cdot01+46\cdot14\cdot01+46\cdot15\cdot01+46\cdot16\cdot01+46\cdot17\cdot01+46\cdot18\cdot01+46\cdot19\cdot01)}{\text{人件費総額}(14\cdot01\cdot01)} \times 100$$
- (イ) 経常経費対経常的経費総額 =
$$\frac{\text{施設の年間所要経常経費}(46\cdot01\cdot06+46\cdot02\cdot06+46\cdot03\cdot06+46\cdot04\cdot06+46\cdot05\cdot06+46\cdot06\cdot06+46\cdot07\cdot06+46\cdot08\cdot06+46\cdot09\cdot06+46\cdot10\cdot06+46\cdot11\cdot06+46\cdot12\cdot06+46\cdot14\cdot06+46\cdot15\cdot06+46\cdot16\cdot06+46\cdot17\cdot06+46\cdot18\cdot06+46\cdot19\cdot06)}{\text{経常的経費}(人件費(14\cdot01\cdot01)+扶助費(14\cdot05\cdot01)+公債費(14\cdot09\cdot01)+物件費(14\cdot03\cdot01)+維持補修費(14\cdot04\cdot01)+補助費等(14\cdot06\cdot01)+投資及び出資金・貸付金(14\cdot14\cdot04+14\cdot14\cdot05)+繰出金(14\cdot15\cdot04+14\cdot15\cdot05))} \times 100$$
- ③ 人口千人当たり職員数 =
$$\frac{\text{職員数(地方公務員給与実態調査)(注)}}{\text{平成22年3月31日現在住民基本台帳人口}} \times 1000$$
- (注) 職員数=平成22年度地方公務員給与実態調<12-(ロ)-(1)>+<12-ノ-(1)>+<12-オ-(1)>+<12-ク-(1)>+<12-ヤ-(1)>+<12-マ-(1)>+<12-フ-(1)>
- ④ 職員1人当たりの指標
- (ア) 給料 =
$$\frac{\text{給料}(15\cdot01\cdot06)}{\text{職員数(地方公務員給与実態調査)(注)}}$$
- (注) 職員数=平成22年度地方公務員給与実態調<12-(ロ)-(1)>+<12-ノ-(1)>+<12-オ-(1)>+<12-ク-(1)>+<12-ヤ-(1)>+<12-マ-(1)>+<12-フ-(1)>以下、職員数…Eとする。
- (イ) 時間外勤務手当 =
$$\frac{\text{時間外勤務手当}(15\cdot01\cdot14)}{E}$$
- (ウ) 期末勤勉手当 =
$$\frac{\text{期末勤勉手当}(15\cdot01\cdot19)}{E}$$
- (エ) 旅費 =
$$\frac{\text{旅費}(89\cdot01\cdot02)}{E}$$
- (オ) 需用費 =
$$\frac{\text{需用費}(89\cdot01\cdot04)}{E}$$
- ⑤ 人件費比率
- (ア) 地域手当支給率 =
$$\frac{\text{地域手当}(15\cdot01\cdot08)}{\text{給料}(15\cdot01\cdot06)+\text{扶養手当}(15\cdot01\cdot07)+\text{管理職手当}(15\cdot01\cdot18)} \times 100$$
- (イ) 時間外勤務手当支給率 =
$$\frac{\text{時間外勤務手当}(15\cdot01\cdot14)}{\text{給料}(15\cdot01\cdot06)+\text{地域手当}(15\cdot01\cdot08)} \times 100$$
- (ウ) 管理職手当支給率 =
$$\frac{\text{管理職手当}(15\cdot01\cdot18)}{\text{給料}(15\cdot01\cdot06)} \times 100$$

- (エ) 特殊勤務手当支給率 = $\frac{\text{特殊勤務手当(15・01・13)}}{\text{給料(15・01・06)}} \times 100$
- (オ) 期末勤勉手当支給率 = $\frac{\text{期末勤勉手当(15・01・19)}}{\text{基本給(15・01・05)} \div 12}$
- (カ) その他の手当支給率 = $\frac{\text{その他の手当(15・01・22)}}{\text{給料(15・01・06)}} \times 100$
- (キ) 共済負担率 = $\frac{\text{地方公務員共済組合等負担金(15・01・24)}}{\text{給料(15・01・06)}} \times 100$
- (ク) 職員互助会補助率 = $\frac{\text{職員互助会補助金(15・01・32)}}{\text{給料(15・01・06)}} \times 100$
- (ケ) その他の比率 = $\frac{\text{その他(15・01・33)}}{\text{給料(15・01・06)}} \times 100$
- (コ) 事業費支弁人件費率 = $\frac{\text{事業費支弁人件費(15・01・41)}}{\text{職員給(15・01・04)}} \times 100$
- (サ) 臨時職員給与率 = $\frac{\text{臨時職員給与(15・01・23)}}{\text{職員給(15・01・04)}} \times 100$
- ⑥ 市町村税に対する人件費 = $\frac{\text{人件費(14・01・01)}}{\text{市町村税(05・01・01)}} \times 100$
- ⑦ 地方債新規借入額に対する償還額 = $\frac{\text{21年度地方債償還額(33・54・06)}}{\text{21年度地方債借入額(33・54・02)}} \times 100$
- ⑧ 補助費等構成比
- (ア) 国・県負担金 = $\frac{\text{国・県に対する負担金・寄附金(19・01・19)}}{\text{補助費等総額(19・01・26)}} \times 100$
- (イ) 一部事務組合負担金 = $\frac{\text{一部事務組合に対する負担金・寄附金(19・01・20)}}{\text{補助費等総額(19・01・26)}} \times 100$
- (ウ) 負担金計 = $\frac{\text{負担金・寄附金計(19・01・22)}}{\text{補助費等総額(19・01・26)}} \times 100$
- (エ) 補助交付金 = $\frac{\text{補助交付金(19・01・23)}}{\text{補助費等総額(19・01・26)}} \times 100$
- ⑨ 普通建設事業費充当財源構成比
- (ア) 国庫支出金 = $\frac{\text{国庫支出金(13・12・02)}}{\text{普通建設事業費(13・12・01)}} \times 100$
- (イ) 県支出金 = $\frac{\text{県支出金(13・12・03)}}{\text{普通建設事業費(13・12・01)}} \times 100$
- (ウ) 地方債 = $\frac{\text{地方債(13・12・10)}}{\text{普通建設事業費(13・12・01)}} \times 100$
- (エ) 一般財源等 = $\frac{\text{一般財源等(13・12・11)}}{\text{普通建設事業費(13・12・01)}} \times 100$